

久喜市の地域医療を取り巻く現状と対応

ア 地域完結型医療の確立に向けて、医療機関の機能分化や連携の必要性

地域完結型医療とは、各医療機関が担当分野に専念することを前提に、互いに連携しながら患者を診ていく仕組みであり、初期の診療や健康管理をかかりつけ医、入院や手術は急性期病院、リハビリは回復期や療養型の病院が担当します。

久喜市内には、令和6年11月現在、かかりつけ医となりうる診療所等が72か所、入院のための病床を備えた病院等が9か所あり、このうち救急の受け入れを行う救急告示病院が8か所となっています。

また、かかりつけ医等を支援する地域医療支援病院として、埼玉県から承認された新久喜総合病院では、救急の受け入れに加え、紹介患者に対する医療の提供も行われています。※資料3参照

イ 高齢化が進み、今後益々医療と介護の連携の必要性

高齢化の進行により、医療だけでなく介護との両立を必要とする人が増える中、住み慣れた地域でその人らしい暮らしを続けていくためには、地域の医療と介護の関係機関が連携し、包括的かつ継続的な在宅医療・介護が提供される体制づくりが求められます。

久喜市では、平成28年度から、医療従事者、介護関係者、行政職員で構成された在宅医療・介護連携推進会議を開催し、課題の把握や対応方策等の検討などを行っています。※資料4参照

ウ 安心して医療を受けるためにかかりつけ医を持つことや医療制度、適正受診等の周知

限られた医療資源の機能を効果的に発揮させていくためには、かかりつけ医を持つことに加え、緊急時における医療のかかりかたなどについて、日頃から正しく理解しておくことが重要です。

毎年、市ホームページや広報くきに救急の日に関する記事やかかりつけ医に関する記事を掲載しているほか、就学時健康診断の際などに、埼玉県の救急電話相談及びA I 救急相談について、情報提供を行っています。

また、市のSNSのほか、公式動画チャンネルや久喜市健幸・子育てナビを活用して、かかりつけ医を持つことや休日・夜間等における小児医療の適正な受診方法などを呼び掛けています。

今後も、市民等が医療に関する理解を深め、限りある医療資源を有効に活用していけるよう、わかりやすい、医療情報の提供に努めてまいりたいと考えています。

エ 災害時の医療体制については、国や県のマニュアルと整合を図り、救護所の設置や医薬品の確保等の体制づくり

災害時における医療救護については、医療政策の中でも防災対策の上でも非常に重要な課題と捉えています。

災害が発生した場合、いかに迅速かつ的確に対応できるかが鍵となってくるため、具体的な行動計画を策定し、関係者間で共有しておくことが必要です。このため、国や県の対応マニュアル等と整合を図りつつ、久喜市医師会等の関係団体と協議しながら災害時における医療マニュアルの作成に取り組んでいきたいと考えています。

なお、作成後は、市ホームページ等を通じ公表することも検討してまいります。

※幸手保健所地域災害保健医療調整会議への参加